

がん患者を支援する「リレー・フォー・ライフ 大阪 in 貝塚」のイベント

## 病気と闘う子供たちの“手形”を掲げよう！

～8月2日（木曜日）大阪府立母子保健総合医療センターにて～

がん患者支援チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ 大阪 in 貝塚」が2012年9月22日（土）～23日（日）に開催されます。がん患者とその家族や友人でチームを組み24時間リレー方式で歩き続けながら寄付を募るものです。しかし、小児がんの子供たちは免疫力が弱くこうした屋外イベントに参加することは難しいことから、違った形で参加してもらうことにいたしました。それが今回のイベント・『小児がんの子供たちの“手形”を掲げよう！』です。イベント内容は以下の通りです。大変お忙しいこととは存じますが、ご取材いただきますようお願い申し上げます。



【日時】 8月2日（木曜日） 15時～17時（2時間予定）

【場所】 大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府和泉市室堂町840）2階中央会議室

【イベント内容】

小児がんの子供たちおよそ20人余が、「リレー・フォー・ライフ 大阪 in 貝塚」の当日に参加者が掲げる横断幕に思い思いに手形を押していきます。その子供達の手形を押してくれた横断幕を先頭にウォークは開始されるのです。また、当日会場を明るく照らすキャンドルを覆うルミナリエバッグにメッセージや絵を書いてもらいます。

（今回のイベントで子供達に伝えたいこと）

病院の先生、スタッフ、お父さんやお母さん、お薬屋さん、院内学校の先生、病院食を作ってくれる人、色んな人達が君たちのことを考えて、一緒に闘っている。お父さんやお母さんの友達も君のことを考えている。リレー・フォー・ライフに参加したみんなが旗に手形を押してくれた君たちのことを考えて一晩歩くからね。元気になったら会場に来てください。

（※取材時のお願い）

イベント開始1時間前14時にはお入りください。感染症予防のため当日問診票に記入していただきます。前日に「取材依頼書」をFAXしてください。付き添いの親御様の許可なくお子様の顔の撮影、子供たちへの直接のインタビューもお控えください。モザイク処理よりも映さない方向でお願いいたします。病院内でのことですのでご理解の上、ご協力の程よろしくお願いたします。

【連絡先】

◇大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府和泉市室堂町840）

TEL 0725-56-1220（代表）内線 3241 FAX 0725-56-1858 企画調査室 清水

◇リレー・フォー・ライフ大阪実行委員長 増田悦子（大阪府門真市江端町5-5-5）

携帯 090-1895-9349 TEL・FAX 072-397-3135 <http://relayforlife.jp/osaka/>

## ◇リレー・フォー・ライフとは

1985年にアメリカで始まった、国際的ながん撲滅イベントの1つです。

地域住民がチームで1昼夜グラウンドを歩き繋ぎながら、がんの患者・遺族だけでなく、一般者・医療従事者らが共に参加・交流し、地域一体でがんを打ち克つ術を学ぶ場です。リレー・フォー・ライフでは、350万人以上の方が、毎年次の事のために集まっています。

☆ Celebrate（祝う）：がん告知、その衝撃を乗り越えた人の1年をお祝いします。

☆ Remember（祈る）：この病気で命を落とした大切な方々を追悼します。

☆ Fight Back(反撃する)：『この病気で命を落とすことを無くすんだ』という気持ちを行動に繋げて、リレーしていきます。

日本では、2006年から始まり、2012年は約40カ所で開催されます。

寄付を募るイベントですが、日本では絆も重視されます。がんになった者ができる社会貢献活動として、患者が中心となって、一般参加者と交流し情報を発信して、がんに対しての知識を高め、関心をもってもらうことも意義の一つとしています。

関西では9月に、京都市、豊岡市、芦屋市、貝塚市で順次開催されます。



## ◇小児がんとは

小児がんとは15歳未満の子どもにおこる悪性腫瘍のことです。発がん因子が未熟な臓器に作用してがんが発生し、細胞が未発達なほど、がん化が早いといわれています。最も多いものが白血病です。成人と違い、抗がん剤がよく効くことや近年の治療法の発達などで、根治できるものも多くなっていますが、治療の副作用や晩期障害など問題も少なくありません。

## ◇大阪府立母子保健総合医療センターとは

1981年に開設された医療機関。主に周産期医療の専門的な基幹施設として妊産婦や低出生体重児、新生児に対し、高度・専門医療を行っている。また、小児医療部門も開設し、乳幼児等に対しても新生児期からの一貫的な医療を行っている。

## ◇リレー・フォー・ライフ大阪実行委員会 実行委員長 増田悦子とは

2009年に子宮筋腫の手術で肉腫が発見されました。子供に恵まれなかったうえに子宮も卵巣も全部失うことは辛かった、しかし、もっと辛かったのは確たる治療法がないとわかったこと。**がんは不治の病ではなくなりつつあるけれど、その中でも難治性とか肉腫のように稀少とか言われて、あまり注目されず、研究されていないがんがあると知ったこと。自分がそんながんになったことがショックだった。**一度目の手術で肉腫と判明して、卵巣を取るか残すかの選択をしなければならず、増田岳史（夫）が少ない情報を必死で集めていたとき、大阪で唯一の肉腫の研究者に巡り合った。肉腫の創薬の研究をされていた。早速、手術をした病院より標本を出してもらい分析してもらった。結局は、その研究している薬では、治せないことがわかったが、自分の肉腫のことを1時間以上かけて丁寧に説明してもらったことが有難く、納得できた。

**日本では研究者は環境に恵まれているとはいえない。稀少がんは研究しても多くの成果が得られないので製薬メーカーも手を出しにくい。肉腫はマーカーもなく、非上皮細胞にできるので発見も難しい、再発転移したら切るしかない、切れないところに転移したらどうするのか？そんながんになっているのに、何故その研究に日の目が当たらないのか？恐怖と疑問がどんどんふくらむ中でリレー・フォー・ライフに出会った。**

再発をものともせず歩いている患者、転移のたびに何度も手術してそれでも元気で歩く患者、参加することを目標に辛い治療も乗り越えたと語る患者、「三年前は車椅子、二年前は松葉づえ、今年やっと自力で歩いている」と嬉しそうに語ってくれた患者らと出会い交流し、まず自分の再発転移の恐怖などちっぽけなものである、みんな闘っている、再発転移したら闘えばいいのだ、と力が湧いてきた。患者ではないけれどリレー・フォー・ライフに参加していた人達にも励まされました。肉腫のことを説明すると一所懸命聞いてくれた。そんながんがあるということをわかってくれた。大阪でもリレー・

フォー・ライフをやりたいと思った。**肉腫というがんがある。大阪の、全国の、研究者に光をあててほしい。**大阪は「がん対策推進条例」が施行され「がん征圧」の気運が高まってきている、リレー・フォー・ライフを是非とも大阪府でも開催したいという熱い仲間たちは、すぐに17名集まった。平成23年12月にリレー・フォー・ライフ大阪実行委員会を設立した。小児がんはさらに稀少がんです、そして小児の肉腫患者は多いです。大阪府のがん対策を勉強する過程で、大阪府がん対策推進委員会 小児がん部会の委員でもある大阪府立母子保健総合医療センター 井上雅美医師(血液・腫瘍科)に出会い。この度のイベントをさせていただくことになりました。